

KFR セミナー（大阪公立大学大学院工学研究科海洋システム工学分野共催）

11月10日版

GHG 排出低減のためのエンジン開発の最前線

経済活動由来の温室効果ガスの大部分は、石油や石炭などの化石燃料のエネルギー利用によるものです。地球温暖化の進行を食い止めるためのカーボンニュートラル実現に向け、あらゆる分野でチャレンジが行われています。この流れは船舶分野でも著しく、新燃料とそれに対応したエンジンの開発が国際的にも加速している状況です。我が国、日本の各メーカーでも、GHG 削減に向けた国際的な要請に応えるべく、研究開発にしのぎを削っています。今回の KFR 例会では、GHG 排出低減のための国策レベルでの大きな流れと、実際の船用メーカーの研究開発動向について講演いただきます。ご関心をお持ちの多数の方々のご参加をお待ちしております。

KFR 会長 鈴木 博善

— 記 —

第356回 KFR セミナー ※回の数字が変更となりました（第355回→第356回）

- 日時：2023年12月14日（木）14:00～17:00
- 場所：大阪公立大学 I-siteなんば 講義室C1+C2+C3
大阪府大阪市浪速区敷津東2丁目1-41
<https://www.omu.ac.jp/isite/>
- 対面のみ（オンライン配信や録画は行いません）・懇親会あり（次頁参照）
- 参加費：無料、要事前登録

・海事分野におけるGHG削減に向けた政府の動向

（大野 敬介 氏：国土交通省）14:00～14:50

本年7月にIMOにおいて2050年頃までに国際海運からのGHG排出ゼロを目指す新たな戦略が採択された。目標の達成に向け、我が国において進められているゼロエミッション船等の開発の他、内外航におけるカーボンニュートラル実現に向けた政府の取組について紹介を行う。

・GHG削減のための新燃料対応エンジンの開発

（東田 正憲 氏：川崎重工業）15:00～15:50

船用機関から排出されるGHG削減に向けた切り札として、脱炭素燃料の使用が期待されている。川崎重工は、水素燃料エンジンおよび液化水素燃料タンクを含む水素燃料供給装置（MHFS）を効率的に開発するために、グリーンイノベーション基金によるサポートを受け、他社と開発コンソーシアムを結成し開発を進めている。現在の開発状況と今後の取組みについて紹介する。

・GHG削減に向けた新燃料対応エンジンの開発状況

（山田 哲嗣 氏：ダイハツディーゼル）16:00～16:50

GHG削減に向け、船用機関燃料としてメタノール、アンモニア、水素等への対応が求められている。これに対しダイハツディーゼルでは、効率的・効果的に開発を進めるべく、単気筒試験機での燃焼試験を進めており、その開発状況と今後の取り組みなどについて報告します。

参加申し込みは、12月8日（金）までに下記URL（QRコード）からお願いいたします。

<https://forms.gle/CErLH1mrrngTshS89>

問合せ先：(公社)日本船舶海洋工学会 関西支部 事務局・牧 敦生
TEL：06-6879-7593 FAX：06-6879-7594
E-mail：k.office@jasnaoe.or.jp



会場（大阪公立大学 I-site なんば）までのアクセス

（大阪公立大学 I-site なんば HP より転載）
<https://www.omu.ac.jp/isite/access/>



懇親会について

セミナー終了後、懇親会（17：30開始、YEBISU BAR なんば City 店、会費=4,500円）も予定しています。こちらにもぜひご参加ください。当日は係の者が誘導します。お手数ですが、懇親会への参加希望についても併せてご連絡をお願い致します。なお、懇親会欠席のご連絡は、**1週間前まで**にお願いします。

※懇親会費は当日、現金でお支払いください。できるだけ釣銭なきようお願いいたします。

※懇親会の直前（1週間前以降）のキャンセルは原則お受けいたしかねます。



以上